

2013 年度
埼玉地区主題

主にある交わりを
深めよう

日本基督教団関東教区

埼玉地区通信

2014 年 3 月 16 日

発行人 日本基督教団 関東教区
埼玉地区委員会

委員長 土 橋 誠

飯能市柳町 23-8

http://www5b.biglobe.ne.jp/~saitama/
印刷所 (株)シャローム印刷

埼玉地区新年合同礼拝

西川口教会金田 佐久子

二〇一四年一月十三日(月)、埼玉新生教会を会場として、埼玉地区新年合同礼拝が行われました。出席者は、三〇三人、五十八教会伝道所・集会所(地区内は五十五)でした。今年は三区(一区・二区・三区)が合同で行う礼拝でした。

昨年のCSせいと大会が天候不順で中止となったため、地区教育委員会が子どもたちのための交流プログラムを準備し、子どもたちも三十人近く参加してくれました。

子どもへのメッセージは、小川教会の末永廣牧師が「最もすぐれた道」と題してお話してくださいました。

今回の説教者は、アジア学院校長の大津健一先生でした。大津先生は、アジアキリスト教協議会(CCA)幹事、日本キリスト教協議会(NCC)総幹事などを経て二〇〇九年四月よりアジア学院校長、二〇一二年六月からは理事長も兼任されています。大津先生の説教の一部をご紹介します。

紹介します。

アジア学院は昨年創立四十周年を迎え、途上国の農業指導者の研修を行っ

ている。アジア学院が目指しているのは「サバントリーダー」の養成。人々に安全な食糧を提供する持続可能な農業(化学肥料や農薬を使わない有機農法)によって、人々が食



べていけるように、様々な人々が共に生きていける農村社会を形成する指導者の養成を行うことである。この世界の七人に一人が飢えている。同時代に生きる者として、食べるこ



とのできない人々がいることを忘れてはならない。毎年約三十人の研修生(農村リーダー)をアジア、アフリカ、中南米、太平洋の島々の諸国から招いて研修を行っている。

東日本大震災はアジア学院にとってたいへんな危機になった。建物の被災、放射能汚染対策に迫られた。学校の存続が可能なのか、苦しみの時代の働きが、神の御心になうならば、神が何とかしてください。」と言われた言葉が励ましとなった。

信仰は守りではない。苦しみのただ中で、主イエス・キリストと共にいてくださることを経験する。コリントの信徒への手紙一第十三章にある「愛」とは、まず、神のわたしたちに対する愛(アガペー)であり、キ

(二ページへ続く)

にぬ

ものごと
に取り組む
とき、優先順

位を考えることは大事です。しかし、しばしばそれができないまま、「えい、やつ」と勢いでその「ものごと」を始めるしかない時もあります。

神学校を卒業して十年を経ました。教会の教務、牧会の課題は多様です。時には「えい、やつ」となってしまうこともあるのが現実だということをしみじみ感じています。

それでも、優先すべきことはあります。その第一の原則は祈りです。そして私自身が持っているもうひとつの原則は「全体」を考えるとということ。自分の振る舞い、言動が地区の諸教会、もつと言えば教団全体の教会とつながっていることを忘れないことです。そうして、自らがキリストの体に相応しくあるために必要な知恵を得たいのです。

聖書と、教会の歴史にその答えがあると常日頃考えています。主イエスの召命を受けた者として、「福音を正しく宣べ伝える」教会を建てる歩みをしたい。「埼玉地区」の交わりの目的がそこにあると信じています。

(都築)

リスト者が立つべきところである。

「愛を追い求めなさい」(同第十四章一節)と続けて命じられている。初代教会は迫害の中で愛の共同体を形成していった。それがやがて新しい社会の基礎になった。愛の行為が基礎となるのである。…」

聖餐式は、北本教会の石川榮一牧師と鳩山伝道所の藍田修牧師が司式されました。地区内の牧師・信徒と一緒に聖餐の恵みにあずかることは感慨深いものがあります。

礼拝直後に、四人の新成人の



ために「祝福の祈り」が埼玉地区委員長の上橋誠牧師によってなされました。その後は、礼拝堂の隣のホールで楽しい交わりのひと時がもたれました。今年もまた地区の一年を、祝福に満ちた礼拝から始めることができ、神に感謝いたします。(地区委員会委員)

「埼玉での伝道を考える」

懇談会開催

飯能教会 上橋 誠

一月二十五日に大宮教会で「埼玉での伝道を考える懇談会」が開かれた。出席者は八十人(子ども十六人を含む)、二十六教会・伝道所と二集会所でした。

昨年三月の地区総会で「伝道について語り合える場を作ってほしい」との意見があり、その意見を地区委員会は真摯に受け止め、この集会を計画しました。



中村眞 牧師は、教会学校の生徒が激減したことをきつかけに、十

六年前に教会学校の大胆な改編をし、プレイズファミリーと称する(プレイズは「神をたたえる、祈る、遊ぶ」の意味)礼拝とした。今では子どもたちだけでなく、その親も参加するようになったと語り、同教会の「おやじバンド」の伴奏と子どもたちの賛美を聞かせてくれました。



野村忠 規牧師は、二年前に東松山教会に着任したとき、まずは東松山の街をよく知ろうと考え、商店街で買い物をし、食事をし、街中の全ての喫茶店を訪ね歩いた。その結果、この街の人が松山という町名に大変誇りを持っていること、そして網の目の様



に人と人との繋がりがついていることが分かった。その繋がりを大切にするようにしている。そこから教会の礼拝に出席する人も与えられるようになった。もともと伝道しようと、面識のない人でも、出来るだけ多くの人に声をかけている。



竹内紹 一郎牧師は、一九九九年に深谷西島教会に着任したが、当時、教会は信徒がほとんどいなく、名ばかりの教会だった。教会の敷地の一部が借地だったため、地主から返還を求められていた。

この状況から、教会案内チラシとトラクト配布により少しずつ教会員が増え、その後土地取得・教会堂の建設をした。この背後には、全国の諸教会の協力、そして、何より関東教区の「ナルドの壺」の互助があったことが大きく、その感謝の言葉が述べられた。

三人の発題の後、質疑応答と意見交換が行われた。発題、意見交換を通じ、共に熱く伝道する姿勢を学ぶことが出来た。

(地区委員会委員長)

祝ご就任

深谷西島教会 竹内 成子



一九九九年四月より深谷西島教会の活動が再開されました。埼玉地区各教会の皆様のご加勢、ご支援によって土地取得、新会堂・牧師館も与えられました。神さまは、埼玉県北部の深谷市十五万人の魂の救いのために、深谷西島教会を存続なさいました。

私は牧師の妻として、教会学校の働きや婦人会、会計、書記の奉仕にも与りました。魂のケアについてキリスト教カウンセリングセンターでの三年間の学びを終えようとしていた頃、神さまは私を、教団補教師検定試験受験へと導かれました。

福音を伝える側も、受け取る側も、人に与えられている時間には限りがある。私のような者をも主が用いようとされている事態の緊急性を感じました。これからも私は、深谷西島教会に仕え、神さまの導きに従い、救霊の働きのために、心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くさせて頂きます。神さまの御旨がなりますよう、是非、皆さま、お祈りの内にお覚え下さい。宜しくお願い申し上げます。

「三区合同教師会」報告

和戸教会 三羽 善次

三区合同教師会が、一月二十七日(月)に東京聖書学校吉川教会においてもたえました。深谷春男牧師の説教による開会礼拝の後、上尾合同教会秋山徹牧師の講演「世界の教会と連帯する教会となるために世界教会会議参加レポート」がなされました。

秋山先生は教団の世界宣教委員会の委員長として、多くの国際宣教会議に出ておられますが、世界宣教と言う大きな視点から教会の福音の証しを考える必要を、次のように語られました。

「福音の証しは、礼拝、伝道、奉仕、教育、自然保護、あるいは社会正義、平和という『全体的』なものであり、わたしたちの生きるあらゆる場面において、神の主権を具体的に形にしていく教会の働きである。そのような包括的な枠組みが教会の宣教とならなければならぬ。その意味で、教団が現在推し進めている『伝道』は内向きではないか。これまでの『周辺への伝道』から『周辺からの伝道』という視点の転換が必要である」。

講演を通して、わたしたちの教会の働きの視座を広げていく示唆を受けました。

昼食後、お二人の教師の発題がありました。志木教会潮義男牧師による「わたしの聖霊論」においては、聖霊を求めるだけでなく聖霊に満たされるといふ個人の信仰経験が明確にならなければならない、と御自身のホーリネス教会の反省を込めて語られました。その際、教団の信仰告白の中の「聖霊はわれらを潔(きよ)めて、義の実を結ばしめ」という一句は、ホーリネスの信仰を反映したものという北森嘉蔵先生の言葉を引かれました。聖霊体験が教会形成を堅固なものとし、またウェスレーが熱く言った世界宣教につながると語られました。

続いて、東京聖書学校吉川教会坪内時雄牧師の発題「小さな者からの学び、弱い者からの学び」がされました。わたしたちの周りにいる社会的に弱い者、身体的に弱い者(特に幼な子)からこそ学ぶべきものが多く、それが秋山先生の言われる「周辺から中心へ」という伝道につながる、と語られました。

最後に、昨年从今年にかけて天に召された、埼玉中国語礼

拝伝道所兼久美愛教会代務の李秀雲牧師、草加教会前牧師・米山正紀牧師、伊勢崎教会前牧師でさいたま市に在住されていた福士卓司教師の三人の方々を、それぞれのこれまでの働きに感謝し、閉会祈祷の中で覚えて追悼しました。

信教の自由2・11集会

川口教会 本間 一秀

二月十一日午前十時より「信仰の自由と平和を求める2・11集会」が大宮教会にて行われました。小海基牧師による講演「本当の民主主義とは」から聞きました。

先生は、最近の関東教区、埼玉地区からは互いに認め合うような豊かさが感じられず、淋しさを覚えるとのことでした。

また、最近の教団の運営は「民主的でない」と問題提起されました。教団新報等の豊富な資料を用いて「宣教基礎理論」「聖餐」「戒規」等諸問題に関し、合同教会としての多様性を認め、世界の議論に広く聞く姿勢の必要性が語られました。

参加三十一教会、八十四名

クリスマスプレゼントへの御礼状が届いています。

主のご降誕を覚え、聖名を賛美します。此の度は、地区委員の皆様のお祈りと共に埼玉地区より貴いクリスマスプレゼントをお送りいただき、心より感謝申し上げます。皆さまの御働きと、地区の諸教会の上に、神さまの御祝福豊かにあります様お祈り申し上げます。

金丸 富

埼玉地区の活動がいよいよ祝されますように、祈ります。主のご降誕の喜びが、地区六十教会に満ちますよう祈ります。

山岡 磐

クリスマスおめでとうございませう。今年もプレゼントを山田先生を通して頂戴し、感謝します。新しい年も地区内諸教会が主のみ守りの内に力強く福音宣教に励まれますよう、祈っています。右御礼まで

遠藤 富寿

他にもたくさんの方から御礼状が届いております。紙面の都合上、全部をご紹介できないことをお詫びし、ご了承くださいますようお願いいたします。

祝 按 手

按手を受けて

東京聖書学校吉川教会

坪内 時雄



私は、日本基督教団、ホーリネスの群の教師として、二年間東京聖書学校吉川教会の伝道師として、主任担任教師の指導と東京聖書学校の生徒たち、諸兄諸姉の篤い祈りに支えられて、按手を受ける恵みに与かる栄光に浴することが出来ました。驚きと共に父なる神さまの御摂理に感謝しております。

主の教会を牧会し、福音を正しく宣べ伝えると共に、洗礼と聖餐との聖礼典を行うことでありますので喜び一杯です。教師と信徒が共に一致した思いに立つて協力し合い、神さまと人に仕える教会の形成に励んで参ります。

日本基督教団の信仰告白を告白し、教憲・教規を遵守しつつ、教区と地区やホーリネスの群れとの交わりを通して研鑽し、感謝と喜びに満ちた教会を形成して参ります。どうぞ、お祈り宜しくお願い致します。

特集

あなたの愛をこの子らに

社会福祉法人児童養護施設

ホザナ園理事長

横山 義孝



第二次世界大戦が日本の敗戦となった翌年、一九四六年九月初旬当ホザナ園は「戦災孤児養育所」として発足しました。その頃、戦争で親を失った子どもたちが上野駅の地下道や大宮駅のホームに多数たむろしていました。駅を出入りする人々から食べ物やお金をもらって生活していたのです。

その頃、浦和別所教会の青年会員たち（筆者もその一人・十九歳）がその不憫な状況を見て、心を痛めていました。教会の牧師（横山英男）がキリストの愛の実践として、「この子たちを何とか世話しようではないか」と決意したとき、立ち上がったのは青年たちでした。



一同は小麦粉をこねて薄焼きパンを作り、これで子どもたちを誘ってこようというわけでした。大宮駅に行きますと、子どもたちはもの乞いをしたり、ホームのベンチに寝そべったりしていました。パンをみせて、「これ上げる、お兄ちゃんちへこないか」と誘うと初対面の子ばかりですが「ウン」といつて六、七人の十歳ぐらいの男の子がついてきました。教会はJR浦和駅から二十分も歩くところですが、おどおどしてるところがありました。大丈夫だよとなだめすかしながら、教会まで連れてきたものです。

その頃、浦和別所教会で修養生活をしている男女の若者がいました。皆で子どもたちの衣食住のすべての世話が始められました。教会堂は畳の集会場になっていましたのでそこで雑魚寝の生活です。教会員の献金、個人所有の土地や不動産を処分してこれに充てていました。が、たちまち底をつき、止むを得ず子どもたちには浦和市の生活保護法の適用を受けてもらい、辛うじて息をつく状態でした。やがて国も福祉行政の面が拡充され、市の福祉課に財政適用を要請できるようになりました。一九四九年、埼玉県から福祉法人としての児童養護活動が認可されるようになり、一同は感謝したものです。子どもの収容はその後増加し、幼児から高校生まで約五十人の規模となりました。

現在は創業当時から六十年余を閲し、社会の状況も大きく変化し、理事長、施設長のもと、指導員、保育士等職員二十数名で運営しています。一九六一年浦和別所から、現在のさいたま市緑区三室に新築移転しました。敷地三八〇〇㎡、小舎式児童棟（五〇〇㎡二階建て）二棟を中心に管理棟など全八棟を擁し、年間一億四千万円余の経費で賄われています。



庭が崩壊しているケースが多く、そこで犠牲になっている子どもたちが入所しています。

教会、学校、幼稚園、キリスト者個人の方々から、年末募金に毎年数百万円の寄付を頂いています。子どもたちの生活費並びに職員のための諸経費は国家予算により賄われますが、臨時の建物、敷地の取得などは、施設独自の資金でやらねばなりません。目下は、三千万円の予算で、子どもたちの健全育成のためと近隣地域の一般の家庭との交流などのためにホールを建設したいと願って準備しています。



一方、子どもと親身になって接し、養育、支援に関心を篤くしてくる職員をもとめています。また後援会では子どもとの文通により、子どもの健全育成に参加してくださる、「お手紙おばさん」（通称）を求めています。

年四回「ホザナ園だより」を発行しています。ご加賛を感謝しつつ、以上ご報告させて頂きました。

埼玉地区委員会報告

●二〇一三年度第五回委員会

日時 十一月十九日(火)

会場 大宮教会

出席 十一名 欠席 なし

【主な報告】

◇委員長報告

＊教会・教師の情報

・就任式

九月二十二日、本庄教会・木

俣修牧師。十一月二十四日、

白岡伝道所・佐々木佐余子

牧師。十二月八日、深谷西島

教会・竹内成子伝道師。

・就任

十月、久美愛教会代務者、中

村眞牧師。

・献堂式

十一月二十四日、久美愛教

会。

・按手

十一月三十日、東京聖書学校

吉川教会・坪内時雄教師。

＊関東教会常置委員会及び関

東教会「被災地・被災教会で

祈りをあわせる旅」(十月二

十八日～三十日)報告。

◇九月、十月の会計報告。

◇各委員会・各部報告

【主な協議事項】

◇新年合同礼拝の件

・説教者は大津健一先生(アジ

ア学院校長)に決定。

・当日の奉仕者、聖餐式準備ボ
スター及びプログラムの作
成・印刷等を決定。

◇伝道所・集会所との懇談会
の件

十一月十九日、大宮教会で開
催した。三伝道所、二集会所
と地区委員が出席し各伝道
所・集会所の置かれている

現状を聞き、懇談の時をもつ
た。

◇伝道に関する懇談会の件

①名称 「埼玉での伝道を考え
る懇談会」

②日時 一月二十五日(土)、午
前十時半～十二時半

③会場 大宮教会

④内容 発題によるシンポジ
ウム。発題者は一区・中村眞
牧師(埼玉新生)、二区・野村

忠規牧師(東松山)、三区・竹
内紹一郎牧師(深谷西島)。

◇地区伝道支援金申請の件

川口教会より十一月二十四
日の「秋の音楽会」の開催に

あたり、予算総額七万五千元
の内三万円の地区伝道支援

金の申請があり、これを承
認。地区伝道会計より支出す
る。

◇国際愛伝道所支援の件

伝道所・集会所との懇談会
(十一月十九日)の中で、現
在厳しい会計状況であるこ

とが報告された(毎月約八万
円のマイナス会計)。継続審
議。

◇クリスマスプレゼントの件

八教会・八名、隠退教師十
名、総額十八万円で実施。

●二〇一三年度第六回委員会

日時 一月二十一日(火)

会場 大宮教会

出席 十一名 欠席 なし

【主な報告】

◇委員長報告

＊教会・教師の情報

・逝去

一月十五日、前草加教会牧師・

米山(谷脇) 正紀教師。

一月二十二日、隠退教師・福士

卓司教師(最終任地群馬地区

伊勢崎教会)。

◇十一月、十二月の会計報告。

◇各委員会・各部報告

【主な協議事項】

◇新年合同礼拝開催の反省と
申し送りに関する件

・三〇三名、五十八教会参加。
・次回は新年合同礼拝実行委
員会を作つて準備にあたる。

◇地区総会に関する件

・開会礼拝説教者は山ノ下恭
二牧師(東大宮)、司式者は結
城恭子姉(大宮)に決定。

・議員登録葉書を発送。締切は
二月十三日。

・各委員会各部報告の提出
二月十三日までに書記へ
メール添付で提出する。

◇国際愛伝道所支援の件

・二〇一三年四月より二〇一
五年三月までの二年間、毎月
一万円の支援を行う。今年度
は一括して支払う。地区伝道

会計より支出する。

・三月の地区総会で、地区委員
長より各教会へ国際愛伝道
所への支援協力をして頂く
ように呼びかける。

◇韓国基督教長老会京畿中部
老会訪問団受け入れの件

六月二十四日から二十七日
まで埼玉を訪問する韓国基
督教長老会京畿中部老会訪
問団の受け入れプログラム
を検討。

訃報

一月十五日米山(谷脇)正
紀教師(前草加教会牧師)が
逝去されました。謹んで哀悼
の意を表します。

編集後記

地区の新年合同礼拝は三区
合同で守り、三百余名が出席さ
れた。アジア学院校長の大津健

一先生の説教で触れられてい
た食の安定と安全はアジア・
アフリカの国の問題ではなく、
ひとたび放射能汚染があれば、
この日本の問題でもある。

困難な環境の地域で農産物
栽培を指導していくことの太
切さを思いながらも、大地震に
よる学院施設の壊滅の中で、こ
れを存続するかどうかの決定
が、神のみ旨を聴くことであつ
たと知り感銘した。

確かに現在、経済格差や内戦
からくる食糧難は解消される
どころか増大している。私たち
もキリスト者として、政治や環
境に対して、地の塩、世の光の
役割を認識したい。

特集では「ホザナ園」を紹介
いただいた。様々な理由で家庭
から引き離された子供たちの
ために六十年以上も尊い社会
奉仕をされておられることに
敬意を表したい。またその母体
となつて今も支えておられる
浦和別所教会やその関係者の
働きを覚えたい。

「埼玉の伝道を考える懇談
会」では三教会の伝道の様子
を知ることが出来た。停滞する
教勢の中で、うちの教会でも試
みてみようと思う数々のヒン
トが得られ、感謝である。

(三井田)

特集

婦人部だより

No.32

全てを益としてくださった

婦人部委員長 中松 聖美

「キリストに結ばれて苦しみを分かち合い、福音の希望に生きる」—コロサイの信徒への手紙に学びつつ—の主題の下、未経験な私たちは主によって呼び集められ、御言葉に聴きつつ共に祈り、支え合いながらこの一年間を過ごすことが出来ました。

私たちは、この務めをさせていただいたことにより、多くの方々のご奉仕の苦勞と喜びを分かち合うことが出来、感謝と同時に地区、教区、教団の働きにも理解が深まり、連帯することの大切さを痛感いたしました。また、前年度の役員の方たちに、早い時期から委員会に席とさせていただきましたので、様子が分かったことは大変良かったと思っています。

今年度は相互理解に重きをおき、それぞれの役割を共有し、活動できるように意思疎通を図ってきました。

二〇一三年十月二十八日(月)〜三十日(水)二泊三日の「被災地・被災地教会で祈りを合わせる旅」に参加することが出来ました。

忘れがたい望郷の思い、今も癒えぬ心の痛みを背負いつつ、今日も明日も歩み続けなければならぬ被災地の現状を目の当たりにして、寄り添い、祈らずにはいられません。

また一方、関東教区においても被害を受けた教会・牧師館、付帯施設は三十余でありました。特に大きな被害を受けた四教会に対しては、「緊急対策積立金」から支援するために献金をいたしました。

アジア学院はコイノニア棟の奉献式が挙行され、少しずつ明るさを取り戻し、回復の兆しを感じられました。

私たちの歩みは、緩やかに前進しながら、各個教会と埼玉地区婦人部が共に主のご栄光を現すことが出来ますようお願い祈ります。

(武蔵豊岡教会)

地区婦人部

全体研修会報告

婦人部書記 小川 洋子

二〇一三年七月七日(月)、大宮教会に於いて埼玉地区婦人部全体研修会が開かれました。「キリストに結ばれて苦しみを分かち合い、福音の希望に生きる」—コロサイの信徒への手紙に学びつつ—の主題のもと「旧約聖書の祈りに学ぶ」と題して、聖学院大学人間福祉学科チャプレン・准教授の左近豊先生に講演をしていただきました。参加人数は三十三教会・伝道所・集会所より百三十五名でした。

左近先生は、ご専攻が旧約聖書で、私たちが悲しみや苦しみに嘆くとき、聖書は私たちに何を語るのかを詩編の祈りを通してお話くださいました。詩編の祈りは、言葉にできないような思いを言葉として紡ぐことで祈りになり、また詩の形をとることで他人との隔ての垣根をとり、その苦悩を伝える手段となります。また嘆きを嘆き

ることができ、そのことによって主が私たちを高めてくださいます。祈りは私たちを孤立させず、神に真剣に苦しみを訴え

ることで、自らも苦悩を受け入れられた主イエスとの出会いに繋がるのです。…左近先生がこのように話してくださいましたことが深く心を打ちました。

日々暮らしている中で、悲しみや苦しみを避けて通って生きていることは不可能です。あまりの辛さに祈ることさえできない状況に陥ることもあります。そして、ただこの苦しみから解放されたいと、何の解決にもならないことしか考えられなくなってしまう弱い私たちです。しかし、私たちには聖書の詩編が与えられています。苦境から希望、そして神への賛美へ、祈りは私たちの生活に一筋の光をもたらします。詩編の祈りに倣い、苦難の時こそ神に向けて言葉を発することで、私たちは救われ、より深い信仰に導かれると考えさせられました。

当日は、午前と午後に分けて研修会でしたが、会場の準備、お茶の用意など、今回も大宮教会婦人会の皆さまにはたいへんお世話になりました。心より感謝申し上げます。

(埼玉新生教会)

もより婦人会研修会

十第一ブロック

音楽という賛美

埼玉大通り教会 蓮見 康子

「聖書の語る苦難の意味」と題し、東海林昭雄牧師(埼玉大通り)が御言葉を語られ、その後、お招きした飯島千雅子先生(東洋英和女学院大学教授)から教会音楽について学びました。

先生のすばらしい声にリードされ、参加者皆が声をそろえた時、賛美することの大切さが心にスーッと浸透していく感じがしました。

「説教は知性を通して御言葉を伝え、音楽は感性というフィリターを通して御言葉を伝えるもの。」の言葉に本当にその通りだと感銘を受けました。「わたしは賛美を住まいとする。」と、主は言われます。

もよりの六教会の姉妹が集められ、心を一つにして主を賛美する時間を共有できたことは、神さまからの祝福と心より感謝申し上げます。

十第二ブロック

キリストに結ばれて

生きる

聖学院教会 八木 和子

年に一回、地区の皆様と学び交われる時、あの方もこの方もお元気だったと、嬉しくなる「もより会」です。今年は、当教会の東野尚志牧師によるコロサイの信徒への手紙からの学びでした。古いものを脱ぎ捨て、日々キリストによって新たにされて、結ばれる喜びを学びました。

今回は新たに国際愛伝道所がお仲間に入ってくださり、街角での礼拝所で始められたお話しも伺えました。

それぞれの教会にあつて婦人の存在は、大地のようにどっしりとした存在だと思ひ、年齢を超えた大きな結びの力を感ずる一日でもありました。

十第三ブロック

あなたは、どのみ言葉と結婚しますか？

草加教会 佐竹 昱子

十一月八日(月)に東京聖書学校吉川教会でもたれた。

深谷美歌子牧師(同教会)は、開会礼拝説教「キリストに

根をおろして」の中で、イスラム教徒の家族と訣別し、受洗した女性の例をとって話され、キリストと共に生きる覚悟の厳しさを示された。

主題講演の深谷春男牧師(同教会)は、コロサイの信徒への手紙三章十六節から詩編の学びへと移った。前置きとして「ルターは、妻の他ガラテヤの信徒への手紙と結婚したと言っていますが、私は、詩編とも結婚しました」と告白、詩編の「嘆き―信頼―賛美」について深く解説された。

午後は、神学生の寸劇と証に、主のご用に年齢制限なしの感動を得た。

九教会・伝道所の五十五名の参加だった。

十第四ブロック

桶川伝道所 高橋 康子

主イエスを愛する婦人たちが、愛ゆえの奉仕について考えさせられた会であった。

「雪とパイナップル」と題し、示唆に富んだ佐々木佐余子牧師(白岡)の説教。

講演は、かつて福島市で生活されていた山野裕子教師(久喜復活集会所)。東日本大震災、原

発事故への想いを分かち合い、具体案を教えられ、何が私にできるか、個々人が深く祈る時となった。

また、各教会の様子を分かち合う中で、李秀雲牧師(埼玉中国語礼拝伝道所)が召された後の伝道所の様子をお聞きした。礼拝は毎週守られ、最近三人の兄弟が受洗し、喜びに溢れているとのこと。

コロサイの信徒への手紙三章一七節「すべてを主イエスによつて、父である神に感謝しなさい」

十第五ブロック

交わりを深めた研修会

越生教会 渡辺 文子

十月八日(火)晴天に恵まれ、七教会三十九名の参加で開催することができました。

開会礼拝は、西海満希子牧師(越生)から「苦しむことを喜びとして」の主題でパウロの獄中の苦しみの中で、神からいただく喜びのゆえに教会に仕える者へと方向転換できることを語られた。

講演会は八年間越生教会を支えてくださった絵鳩アツエ牧師を迎え、全員でアメイジン・グ・グレイスを賛美し、その後

に「聖書に生きる」―あなたの荷を主に委ねよ―と、神に自分のできないことを丸投げし、祈つて行く時に、主は、全てを最善にしてくださることを力を込めて語られました。

午後はグループに分かれ、お互いに自己・他己紹介し、他教会の方の交わりを深めた実りある研修会になり感謝。

十第六ブロック

三芳教会いっばいに

三芳教会 柿本 牧子

十月二十八日(月)八教会四十八名。

当教会の江田めぐみ伝道師より開会礼拝「神の愛」は、呼吸を整えられるかの様。

その後、中山弘隆牧師による講演。地区婦人部の主題を踏まえ「上に向かって歩もう」は、綿密に用意された四ページの他に、五十近くにもなる聖書の引用があり、各自帰宅してからのうれしい宿題とも。「クリスチャンは…」と何度も呼びかけて、「キリストのおられる神の右、神のご支配と尊厳は、不完全な私たちを喜んで受け入れてくださる。神の愛は、すべての道徳行為を完成させる絆である…」と、結ばれた。

講師をお引き受けくださった中山先生は、もより婦人会の皆様が分かり易く納得してお帰りになられるように、三カ月も前から準備されておられた。

豊かな恵みに満たされ、分団と全体会の後、別れを惜しんだ。

十第七ブロック

もより婦人研修会を

終えて

熊谷教会 早川美恵子

秩父鉄道沿線にある伝道所一か所、教会七か所の第七ブロックは、十一月九日(土)熊谷教会に於いて、参加者二十八名で行われました。参加者ゼロの教会があつたのは残念なことですが、近くの地域の姉妹方と共にみ言葉を学び祈り、賛美の時間が与えられ喜びでした。各教会、高齢化に伴い婦人会活動に影響があることも確かですが、八十歳以上の方が数名参加されたことは、励みになりました。昼食の交わりの時には、個人的な事までお話しくださり、和やかな時となりました。

このような近くの教会の婦人方との交流を通して、神様の働きを改めて気づかされ、励め、喜びで感謝感謝でした。

アジア学院研修生 ホームステイプログラム ―六月一日〜三日―報告

☆二人の研修生を迎えて

所沢みに教会 登坂 久美子

六月二日(日) 今年も所沢みに教会では、二人のアジア学院生をお迎えしました。

チャイヤ・ノンアサ(タイ・牧師)さんと濱中陽平さんです。



一日(土)、高崎和子さんの家に泊まった二人は、日曜日はまず、CSの分級に。みんなで自己紹介の後、子どもたち手作りのモーセすごろくで遊びました。そして、一緒に礼拝を守り、

愛餐会にも参加。午後は、最上久美子さんと中学生たちで川越の町を案内しました。喜多院や蔵造りの街並みを等、とても喜んでいました。夕方から恒例となっている高崎家の庭でのバーベキュー。おいしく、楽しい時を過ごしました。

教会では、昨夏「アジア学院をもっと知ろう」という最上光宏先生の発案で、車二台でアジア学院を訪ねました。震災の被害のことや学院の様子などお話を伺いました。そして寮生と同じ食事をいただき畑を見たり、巨大な豚にびっくりしたり、アジア学院を身近に感じる事ができました。

これからも、教会としてアジア学院生を受け入れ続けて行けたらと思っています。

☆豊かな交わりに感謝

安行教会 齋藤 勝子

神さまが選んでくださった方エー・リーさん(ミャンマー)を安行教会に、また、いと小さき家庭にお送りくださりありがとうございます。

ご家族のこと、政治のこと、今、女性が何をしなければならぬか等を語ってください静かな語りの中で力強さを感じることが出来ました。



早い梅雨入りでしたが、聖日礼拝後は小学生を交えて小動物のいる自然公園の散歩を楽しみました。夕食前に証を聞き、賛美と祈りあうひと時を過ごしました。小さな子どもが大好きで、身振り手振りでの会話に笑い声が絶えませんでした。

アジア学院での学びとミャンマーでの働きに豊かな祝福がありますように。

☆主よ、この働きを用い給え

桶川伝道所 高橋 悦子

「神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ」(Ⅱコリント六章十八節)。和解する任務を私たちにお授けになった事を思わされる三

日間だった。アンドイさんは、エクアドルの郊外に生まれ、十歳の時にカトリック教会で洗礼を受け、成人して教育学を学び、今回アジア学院での学びの機会を与えられたとのことである。

アンドイさんの証を礼拝の中で聴いて、改めて、アジア学院の設立の趣旨(アジア諸国に対する懺悔とそれに対応する働き)に、思いを馳せることとなった。



私たちの小さな努力、英語、日本語礼拝、農家訪問、家庭集會も和解のための働きの一つになるのでしょうか。

☆共に座す恵みに

感謝しつつ

久喜復活集会所 山野 裕子
ワイリピンの牧師ヴィクさん

んを迎えた。礼拝は、彼のための説教英訳文と週報などを手分けして準備し、隣席には高校生が着席。英語を交えての元氣な賛美。祝祷は、ヴィク師に。少人数なので皆が奉仕する礼拝でした。

礼拝後、紙芝居「ペンテコステの日」を、英語のセリフで演じ、聖霊が働き、言葉が通じ合う交わりとなった。

彼の「歴史的・伝統的な物」との要望で、青年たちが市内の鷲宮神社と行田市の忍城などを案内した。夕食後は、近くの百観音温泉を楽しんだ。



「こんなに落ち着いた外国人は、初めて!」と、高校生の感想。共に座す恵みと喜びを覚える時を感謝!